

## 被災地（大船渡市）より・その5（最終回）

菅原 聡子 shirasagi77@ezweb.ne.jp

6月22日現在で、死者324人行方不明者129人。あの津波の勢いを見たとき、その10倍もの犠牲者が出たと予想した。働き盛りの方が亡くなったのに、私は病気で仕事に就けず力仕事もできないからボランティアもできない。力のない私が生き残ってしまった。これから先どうすればいいのかと考えてしまう。

津波の日の夜、知人宅のふとんの中で、ロウソクの薄明かりの中、天井を見つめながら考えた。就労者の三分の一が、職を失った。私は、障害年金+ $\alpha$ で、最低限の生活ができる。私が生きると税金の無駄遣いなるのではないか。それだからこそ肩身が狭い。数日後、このことをmailに書いて送った。すると、数え切れない程安否の電話をかけて泣いたという人や受信箱は「大丈夫？」と毎日励ましのメールで溢れていた。

さらに郵便でメル友さんたちからの救援物資が届いた。全てのメールに「必要な物を送るから。非常時なんだから、遠慮しないで」と書いて下さる。

地元では、残った店舗に行列ができ、数量制限もある。酸素ボンベ補給が難しい私は、買い物は無理「そうね。世の中が落ち着いたら、お返しすればいい」と気軽にアレもコレもと頼んでしまった。お陰様で私は、買い物に出なくても、不自由なく暮らせた。

埼玉の幼なじみが『何でも、言うだけでも、言ってみて』と電話をくれた。難しいとおもったが「トランジスタ・ラジオ」をリクエストした。どこでも手に入らないのに、ようやくみつけて送ってくださった。友人は、「大船渡市までの配送は無理です」と四度も断われ、「とにかく、送れるところまで送って下さい！」と粘ってくれたそう。友人に感謝。


津波後、泊めて下さった方々、水を届けて下さった方々、メル友さん達その他大勢の方々に、その後も助けて頂くばかりで、お返しが追い付かない！私は迷惑をかけるばかり。

親切にして頂き『ご恩は一生忘れません。生涯かけてご恩返ししなくては！』という方が増えるばかり。

津波によって大きく環境が変わった。私の化学物質過敏症という病気は、環境の病気。復興の工事に耐えられず、住み慣れた地から遥か遠くへの移転などという、考えただけで気の遠くなる一大事業が待ち受けているかもしれない。もし、そうなっても、する必要なことを一つ一つこなすだけ。

嫌な感情は受け入れ、ありがとうを一度でも言おう。道に落ちているゴミをひろおう。ライフラインに感謝しよう。シークレットサービスをしよう。ご恩返しをする。誰かの話を聞く。お礼の手紙を書く。

私が、生き残って、成すべき事は結構あるじゃない！  
ありがとうございますCL！

 [目次へ戻る](#)